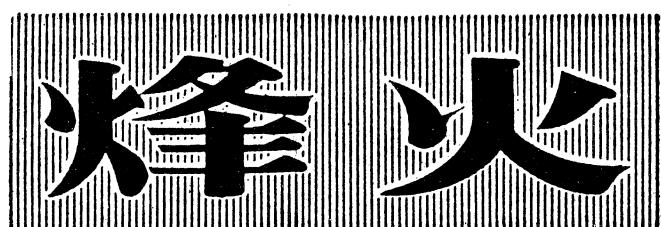


☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争一世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1979年
3月25日
第322号
編集発行人 高木一夫
一部 150円



共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 (電) (06) 371-3706
- 東京 新宿北郵便局 私書箱 2018号
- 沖縄 那覇東郵便局 私書箱 2016号

三里塚反対同盟とともに

二期工区決戦勝利！



1978.3.26 開港阻止決戦

全国の同志諸君！たたかう労働者人民諸君！
三里塚二期工区決戦と七九春闘への突入という緊迫
する情況下で、われわれはすべてのたたかう諸君にもむ
かって、三里塚をはじめとする春期闘争への断固たる
決起を訴える。

七〇年代、労働運動の社共制圧という全般的な状況のもとで三里塚闘争は、階級闘争の自然発生性の最大限を形成し、反政府闘争の頂点へと登りつめた。三里塚闘争は「戦争とファシズム」準備といいう敵の攻撃のかで、日本階級闘争の転換点の波頭に位置している。われわれは七〇年代ブント党内一分派闘争といいう日本における、本格的な単一革命党の創建にむけた苦闘の一時期を、八〇年代にむかっていまこそ全面稼動させなければならない。すなわち、三里塚闘争十四年の歴史のうえに昨開港以来直面してきた闘争の地平を、目的意識的な革命闘争—革命の準備戦の第一歩へと、転化するためいたかいぬことである。こんにちにおける共産主義者の任務はここにこそある。

それは、一大党建設戦であり、「左」右の自然発生

産業報国会化と対決し
七九春闘に勝利せよ！

戦争とファシズムの
準備とたたかいぬく 単一革命党建設へ

設にたいするたたかいなどあらゆる「空港反対」のたたかいを広範に結集せしめ、二期工区決戦の爆発をかちとらなくてはならない。日本階級闘争の転換は三里塚闘争の新たな転換点をしめしている。いつさいが、日帝の「戦争とファシズム」準備との対決ぬきにはありえなくなりつつある。われわれは、帝国主義、社会帝国主義の危機を革命的危機へと転化すべくこのたたかいを、最先頭でないぬかなければならぬ。

そしてそれは次にのべる国際階級闘争の激化、国際共産主義運動の新局面にたいする革命的立場＝国際主義にしっかりと武装されねばならないのである。

国際階級闘争の激化と内戦戦略

帝国主義・社会帝国主義の世界支配再編の角逐がくりひろげられている。とりわけそれはアラブ、アジアを中心に激しさの度を加えている。中国ベトナム戦争の開始、イランにおける激動的情勢の進行にしめされる国際階級闘争＝国際党派闘争の激化はこれとの攻防としてある。

二月十七日、中国人民解放軍は、「中国領内に侵攻していいたベトナム軍の掃討」を名目として、国境全線にわたる大規模作戦を展開した。それは正式の宣戦布告を行なつてはおらず、かつての一九六二年における中印戦争と同様の限定作戦の意志表示であった。これにたいしてベトナムは「抵抗は、侵入中国軍を最後の一人まで国境外に追い出すまで続ける」「侵入した中国軍は中越国境地帯の住民に対し多くの残虐行為を行なつたが処罰された。ベトナムは統一後、五千万人の人口を擁しており今回の戦闘で最後の勝利を收めるだろ。ベトナムの歴史でいまほどわれわれが強力な時はない」とし戦争状態に突入した。

これは、昨年からのベトナム在住中国系住民の追放問題＝引き続く国境紛争を背景に、そして直接的には十数個師団といわれるベトナム軍のカンボジア進行＝新政権樹立にたいする中国の「制裁」的性格を持つものである。この戦争の性格は、何よりも民族解放＝社会主義勢力内部における民族間の戦争である。たしかに中国によるベトナム進攻は、カンボジア問題を焦点としてはいるが、それはこんにちの中国共産党による「反覇權＝三つの世界論」にもとづいたものであって、必ずしもカンボジアにおけるプロ独立の階級闘争を全面的に指導的に突破せんとする正しい觀点に立つものではなく、不斷に自己の民族的利益の中に解体せざるをえないものとしてある。なぜならば、「反覇權＝三つの世界論」は、ソシ帝との闘争をスターリン主義にたいする根本的批判と結びつけてなしえず、世界プロ

独一世界党建設をめぐる国際党派闘争として組織しないという、中国共産党の歴史的限界の反動的戦略的外化へといたつており、一国革命の民族的限界の止揚という根本的課題に答えるからである。

この戦争は、民族解放＝社会主義勢力内部の路線的対立が、中国ベトナム間の国際的党派闘争として全面化したことをしめすものである。それは民族解放＝社会主義勢力の内部においても存在する社会帝国主義への転化の危険との、長期的な闘争としてしか決着のつきようがありえないものである。プロ独立の階級闘争は、ブルジョアジーにたいするブルタリアートのもつとも断固たる、非和解的な闘争である。したがつてそれが戦争形態をとることもまた不可避である。何よりも、プロ独立の階級闘争が帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命との不断の闘争のなかにのみあるからにほかならない。だからこそ一国革命の民族的限界のなかにとどまるかぎり、世界革命戦争＝世界プロ独立への前進の見地にたたないかぎりこれを全世界プロレタリアートの社会主義の勝利への一步へと転化することはできないのだ。

この戦争は、はつきりと世界資本主義の危機＝帝国主義・社会帝国主義の世界支配再編のアジアにおける深まりを基底的動因として、かつ民族解放＝社会主義勢力の社帝化策動を動因としてすることをわれわれはけつして見逃すことはできないのである。帝国主義は、この機会をとらえて必ずや侵略反革命戦争とファシズムの準備の攻撃を強化することは必不可少である。日帝＝防衛庁はただちに「極東の軍事情勢全般の見直し」をうちだした。これが侵略反革命の再編、強化の新たな攻撃へと進められていくことは明らかなのである。すでに、三月一日～十七日にかけて戦後最大の米日韓合同軍事演習＝チームスピリット'79が昨年を三万三千人上回る十四万人の規模で強行されている。

この時レーニン主義内戦戦略こそ帝国主義争へと転化することをもつてこれを終結させ、プロレタリア独裁へと転化し、また民族解放＝社会主義勢力のプロ独立の階級闘争との結合をもつて、世界革命戦争＝世界プロ独立へと転化するそのような戦略である。したがつてそれは国際党派闘争の規準に、そして計画的な全国一齊武装蜂起の準備と結合してはじめ首尾一環したものたりうるのである。

われわれは、現在の国際階級闘争の激化のなかに、日本プロレタリアートの内戦戦略をつきりとかげ、革命的政治闘争の創出に力をつくさなければならない。

この時レーニン主義内戦戦略こそ帝国主義争へと転化することをもつてこれを終結させ、プロレタリア独裁へと転化し、また民族解放＝社会主義勢力のプロ独立の階級闘争との結合をもつて、世界革命戦争＝世界プロ独立へと転化するそのような戦略である。したがつてそれは国際党派闘争の規準に、そして計画的な全国一齊武装蜂起の準備と結合してはじめ首尾一環したものたりうるのである。

われわれは、現在の国際階級闘争の激化のなかに、日本プロレタリアートの内戦戦略をつきりとかげ、革命的政治闘争の創出による搾取と収奪の強化、戦争とファシズムの要素の増大の上で、「産業報国会化」と

死闘と党派闘争

今春期、元号法制化＝天皇制・天皇制 ideology のオロギー攻撃を中心として、日帝は全面的な排外主義の組織化にうつてていている。それは民間右翼の組織化にとどまらず、人民大衆のたたかいであらゆる戦場に官製運動と官製組織を形成せんともろんできますます強化されていく。しかし、こんにちはただ単にそれのみとしてあるわけではない。帝・社・帝の結合した中間連合政府攻撃が階級闘争の自然発生性の排外主義的糾合、組織化をなさんとしている。

中道諸政党のいっそうの「保守化」と呼応して、社共の社会帝国主義としての性格がますます顕在化している。社会党は、「百万党建設」「中間経済政策」を決め、「具体的の政策を提示して政府に実行を迫る」「ささやかにのみあるからにほかならない。だからこそ一国革命の民族的限界のなかにとどまるかぎり、世界革命戦争＝世界プロ独立への前進の見地にたたないかぎりこれを全世界プロレタリアートの社会主義の勝利への一步へと転化することはできないのだ。

この戦争は、はつきりと世界資本主義の危機＝帝国主義・社会帝国主義の世界支配再編のアジャニアにおける深まりを基底的動因として、かつ民族解放＝社会主義勢力の社帝化策動を動因としてすることをわかれはけつして見逃すことはできないのである。帝国主義は、この機会をとらえて必ずや侵略反革命戦争とファシズムの準備の攻撃を強化することは必不可少である。日帝＝防衛庁はただちに「極東の軍事情勢全般の見直し」をうちだした。これが侵略反革命の再編、強化の新たな攻撃へと進められていくことは明らかなのである。すでに、三月一日～十七日にかけて戦後最大の米日韓合同軍事演習＝チームスピリット'79が昨年を三万三千人上回る十四万人の規模で強行されている。

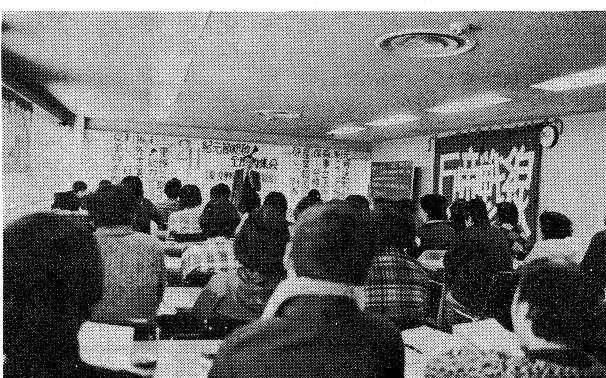
この時レーニン主義内戦戦略こそ帝国主義争へと転化することをもつてこれを終結させ、プロレタリア独裁へと転化し、また民族解放＝社会主義勢力のプロ独立の階級闘争との結合をもつて、世界革命戦争＝世界プロ独立へと転化するそのような戦略である。したがつてそれは国際党派闘争の規準に、そして計画的な全国一齊武装蜂起の準備と結合してはじめ首尾一環したものたりうるのである。

労働運動においては社会帝国主義とそれに合流する右翼日和見主義をまきこんで産業報国会化が進められている。79春闘においては主要民間単産における「一ヶタ要求＝実質賃金」による自主規制と雇用問題をかかげた制度要求へのめりこみとしてあり、また全電通は「賃金闘争改革への道」をかかげ、有額回答のためのストの否定、「各組合の自主交渉を無視した統一闘争反対」とし、また「電気通信産業関連労組との整合性」の名のもとに同盟JCとの合流へとつまんとしている。

不況の長期化、首切り＝合理化、労働強化による搾取と収奪の強化、戦争とファシズムの要素の増大の上で、「産業報国会化」と

烽火

2.11 紀元節粉碎 元号法制化阻止へ決起



二月一日は法家国会上程となり、緊迫した局面のなかで、われわれは関西・関東・沖縄をつなぐて二・一一紀元節粉碎闘争をうちぬいた。

「元号法制定実現国民会議」の結成と展開など、本年二・一にはかつてない規模と官製排外主義運動をもつて準備された。元号法制定攻撃は天皇制攻撃の新たな段階を画すものである。靖国法案・国歌（イデ）を「侵略反革命戦争とアシズム」準備のもとに全国家力量と全人民を総動員するための、「とする野望を帝の「戦争と対決し、武装独裁の計画的攻撃との死力をきりひらく定的戦闘としての元習としての元」が、勝利運合などを経験した天皇主義攻撃としたがって

挾外主義攻撃の支柱へと強化せしとする野望をもつてこの攻撃はうちおろされている。

したがつて本年二・一一是、日帝の『戦争とファシズム』準備と対決し、武装蜂起—プロレタリア独裁の計画的準備のもとに天皇制攻撃との死力をつくしたたかいくをきりひらくのか否かをかけた決定的戦闘としてあつたのだ。『憤習としての元号使用には反対しな』と天皇制を承認し、「主権在

起一プロレタリア独裁の組織化、準備をめぐる党建設―党派闘争としておし進めてゆかねばならない。

右翼日和見主義一四トロは、反政府運動の横断的結合のなかに革命的プロレタリアートの党建設任務を封じこめ、これを「労農同盟」と吹聴し、それをもつて労農政府を社共のもとで実現するのだとする。また、急進民主主義一中核派は反帝国主義の政治過程主義的結合を人民共闘としてかかげる。

ここに明らかのように、彼らは一定の条件のもとで党が組織する大衆の統一戦線政策に

伝導路建設と 今春期の任務

たかいぬけ！」といふスローガンはいまや先進的プロレタリアートみずからスローガンとなりつつある。われわれはこのたかいで、社会による労働運動制圧にたいする、鮮明な政治的分裂へと発展させねばならない。そのためにこそ、これを「労働組合民主主義の防衛」へと固定する右翼日和見主義、急進民主主義とたかいたくねかねばならないのだ。労働運動の産業報国会化を許すな！革命的労働運動を構築せよ！このスローガンを先進的プロレタリアートのスローガンとしてかかげ今春闘に決起するプロレタリア大衆をこのたかかに組織せよ。

しかすぎないものを意味付与し、「労農同盟」であると主張し、それをもつて問われている「権力の問題」にこたえることだという。だが彼らのいうところの労農同盟とは、第一に、ロシア一九〇五年革命時における労働者と農民の民主主義的独裁を、プロレタリア独裁と混同していること。すなわち、プロレタリア独裁を労働者と農民一般との同盟関係のなかに転落させるのだ。

第二に、レーニンのいうところの労農民主

々義の「労農同盟」論にしめされる蜂起一プロ独の計画的準備からの転落とたたかいぬきかつ大胆な大衆自身による統一戦線の形成をもつて大衆の自然発生的分裂を政治的分裂へと転化するためにたたかうのである。

三里塚闘争への決起を全力をあげてにないなく先進的プロレタリアートの任務の第一は侵略反革命軍事空港粉碎！二期工事阻止！このスローガンを全人民のなかに持ちこみ、三里塚農民と結合し今春期における日帝の侵略

とせねばならない。
われわれはこの現代革命の根本課題を鋭く自己のものとしてきた。それはいまや、情熱の激動に応じた新たな組織として自己を対応させ、長期にわたる蜂起一獨の準備に入つてゆくのである。プロレタリアートの内部に革命の鮮明な水路を、武装せる革命の伝道路を建設せよ。われわれは、ここに先進的プロレタリアートの進路があることをはつきりとうがたえねばならない。都市賃金労働者、勤労農民をこのたたかいへと組織せよ。
そのためにこそ右翼日和見主義、急進民主

るレーニン主義党建設へと自己を飛躍させ、階級闘争の奥深くに蜂起一プロ独の司令部!! 中央集権非合法党細胞を建設し、全人民の政治的前衛へと自己変革、武装のために全力をあげてたたかうことである。

いざ決戦の三里塚へ！

七九春闘勝利！元号法制化阻止、沖縄CTS決戦勝利、狹山再審闘争勝利！四・六月安保＝日韓闘争勝利！東京サミット粉碎、防衛二法粉碎へと進撃せん。

機械へと転化せよ！

帝国主義・社会帝国主義の危機を革命的危機へと転化せよ！

ルジヨア民主々義革命のなかに、労農同盟をうち立てさえすればプロ独に移行するのだとすることなのである。

かかるレーニン主義からの転落にたいして社会主義革命における労農同盟とは、階級の廃絶＝農民と労働者の差異の廃絶にいたるプロレタリア独裁の国家が、労働者と農民の國家としてしかはじまりえず、農村における階級闘争の組織化の見地から形成されるもので

現代過渡期世界における共産主義者の任務は、革命的プロレタリアートの党を建設することにある。それは、国際党派闘争をもつて

第二には、三里塚農民との連帯をかかげて決起するプロレタリアートのなかにはつきりと労働運動の産業報国会化とのたたかいをうちだし、それを中間連合政府とのたたかいという基軸のもとでのプロレタリア独裁をめぐる党派闘争へと組織してゆかなくてはならぬ。い。

排外主義との闘争に決起せよ。戦後労働運動の特殊な位置を形成してきた社民一総評による「戦闘的労働組合主義」の排外主義への転化にたいして、広範に形成される「左派反対派」の大衆と結合せよ。これを鮮明な政治的分裂へと転化せよ。

たかいぬけ！」といふスローガンはいまや先進的プロレタリアートみずからスローガントなりつつある。われわれはこのたかいたいを社会による労働運動制圧にたいする、鮮明な政治的分裂へと発展させねばならない。そのためにこそ、これを「労働組合民主主義の防衛」へと固定する右翼日和見主義、急進民主主義とたかいたいぬかねばならないのだ。労働運動の産業報国会化を許すな！革命的労働運動を構築せよ！このスローガンを先進的プロタリアートのスローガンとしてかかげ今春

しかすぎないものを意味付与し、「労農同盟」であると主張し、それをもつて問われている「権力の問題」にこたえることだという。だが彼らのいうところの労農同盟とは、第一に、ロシア一九〇五年革命時における労働者と農民の民主主義的独裁を、プロレタリア独裁と混同していること。すなわち、プロレタリア独裁を労働者と農民一般との同盟関係のなかに転落させるのだ。

第二に、レーニンのいうところの労農民主主義独裁がプロレタリア独裁への過渡の組織

々義の「労農同盟」論にしめされる蜂起一プロ独の計画的準備からの転落とたたかいぬきかつ大胆な大衆自身による統一戦線の形成へもつて大衆の自然発生的分裂を政治的分裂へと転化するためにたたかうのである。

三里塚闘争への決起を全力をあげてにないなく先進的プロレタリアートの任務の第一は侵略反革命軍事空港粉碎一二期工事阻止！このスローガンを全人民のなかに持ちこみ、三里塚農民と結合し今春期における日帝の侵略反革命の再編・強化＝安保・日韓体制粉碎の全般的攻撃として実現しきることだらる。

デツチあげを暴露

片平鬪争・第21回公判報告

2. 16

二月十六日、第二十一回片平公
判闘争は断固たる反証闘争として
たたかいぬかれた。

の追及のなかで、検察側証人としてしぶしぶ出廷した耳原病院外科部長沼島（日共）にたいする、鎌島という医師は、「暴力事件」ねつ造のために権力の意をうけてデーチチあげ診断書を書いた医者である。沼島は「被告」側の追及の前に、診断書の「全治二週間」の「傷」が、カルテによれば当日も翌日も「当てガーゼだけ」という軽傷であったこと、「診断書は医者の所見によって異なる（どうにでも作ることができる）」と証言し、「傷害事件」のペテン性を自己暴露したのである。

再度あきらかにするとともに、権力のデッチあげをつうじた片平闘争への弾圧の性格をも浮きぼりにするものであった。片平氏への解雇は「障害者」差別にもとづく解雇にほかならなかつた。そしてこれへの反撃は、関西を中心に「障害者」解放闘争の重要な一画を占めてたたかいぬかれてきた。権力はこれにたいし四・四団交を機に、「障害者」のみの選別逮捕―起訴を日共をひきこんで遂行することをもつて、たたかいの鎮静化と解体を報復的にもくろんだのである。そしてその基底にははつきりと、「障害者」への差別的労働条件の強要、労働権・生活権の剥奪、分断と対立の扇動という階級的野望がつらぬかれているのである。

われわれは、このような攻撃と

組織するための決定的なテコとなる合理化攻撃のなかで進行する事態は、労働者階級の失業と労働強化によるいっそうの窮乏と肉体破壊であり、この矛盾の「障害者」への転嫁である。合理化の最初の犠牲者にリストアップされるのは、「障害者」であり、ブルジョアジーは「障害者」の労働権を奪い立と競争を組織し、労働者階級との團結と結束をバラバラに解体しようともくろむのである。資本主義の根底的危機によつて日々再生産されるこのような現実を基盤に、日本帝国主義は政治的支配としての「障害者」差別を強化し、これを戦争とファシズム

□公判予定
三月十六日（午前十時）
五月十四日（午後一時）
六月二〇日（午後一時）
大阪地裁

「ついでに、『被告』側証人として登場した元堺養護学校校長・早瀬敏夫は、「私は内示があつたから片平さんに四月からの継続雇用を告げた」「四月からも片平さんが採用されることを確信していた」と証言。この決定的発言によつて権力、府教委、日共がくりかえし主張しつづけてきた「片平の解雇は期限切れ解雇であり正当なものであつた」「片平らの団交は言いがかりであり暴力的行為」という歪曲とデマは、完全に粉碎されたのである。

対決し、早期結審有罪判決を許さず、片平闘争完全勝利にむかっていつそうの奮闘を決意せねばならない。なぜならば片平闘争がこんなにちの情況下で占める位置は、ますます大きなものになつてゐるからである。

侵略反革命戦争とファシズムの準備を急ぐ日本帝国主義の、「障害者」差別・分断・隔離・抹殺攻撃の強化は、労働者人民の排外主義的統合のための要として存在している。七九養護学校義務化、刑法改悪・保安処分新設、無実の赤堀氏への再審棄却・抹殺攻撃を頂点とする日帝の「障害者」に対する攻撃は、戦争とファシズム下の「障害者」支配を準備するもの

「検事控訴」を弾劾し たちちに反控訴

71年11・19北大阪武装制圧闘争

よう、七二年沖繩「返還」協定批
被告団は、一月二十九日の判決で、
がら実刑を阻止した。この十一・二
年有余のたたかいの勝利に恐怖した
力は、五名の戦士を不当にも控訴し
は、第二審を敢然とたたかうべくた
を決定した。

擊を不可避ならしめているのは、十
争がこんにちの八〇年安保攻撃と結
侵略反革命前線基地強化にたいする
だからである。侵略反革命戦争策動
ますます暴力独裁の本質をあらわに
反動化と対決しぬき、第二審公判闘
け十一・一九被告団は激烈にたたか
である。さらなる支援と連帯を。

たちに反撃訴

71年11・19北大阪武装制圧闘争

七九春闘を労働運動の一里塚へ

全国各地でたたかう戦闘的労働者諸君。日本労働運動の転換期がいま本格的にはじまるとしている。既製指導部・社共・民同・同盟はこぞって、産業報国会への道を歩みだした

年末年始の全遁反マル生闘争の爆発は、新たなたたかいの開始を告げ知らせて いる。七九春闘が歴史的たたかいとなるのは必至である。われわれはここに鮮明な戦闘指針を提起する。

であると同時に、資本主義の危機のもとで増大する労働者人民の反抗と憤激を制圧し、労働者階級の階級解体となる手段へとうちかためようとしているのである。したがつて「雇用確保」のぎまん的スローガンをかけつつ、資本の「障害者」解雇に手を借し、ブルジョアジーの

われわれは烽火三一六号（七八年五・一五）および三一七号（七八年七・五）で、われわれの労働運動基調（上）（下）を明らかにし

た

それは概括的にいえば、わが同盟のこれまでの『労働運動基調』総括とレーニン主義の継承の内実が、『何をなすべきか』と『左翼小児病』の統合的把握のもと、党と革命的プロレタリアートの目的意識的な労働運動指導としてあることを鮮明にし、わが三〇一号路線下の労働運動基調の基本的立場をしめすものであった。

的弱点が、自然成長的反帝国主義と結びついた左翼小児病とレーニン主義党建設に対するソビエト主義にあつたことの総括を明らかにし、「労働運動を労働組合運動のなかに閉殺しないこと、自己の任務を労働組合の指導から展望するという転倒ではなく、階級深部に配置された蜂起—プロ独の司令として自己を組織し、ここから現実の労働運動への目的意識的指導をなすというたたかいから開始すべき」ことを革命的プロレタリアートの前に宣言したのである。

このことは、こんにちにおいて後にもべるよう、「階級的労働運動」の枠内にとどまるこことにより党建設の日和見主義におちいる部分が、総評労働運動の解体のなかで、戦闘的組合主義たるかつての総評労働運動の防衛をもつて革命的プロレタリアートの任務とする、一つの運動潮流として無視できない新たな解党主義勢力を形成していることからして、さらにはつきりと確認せねばならないことである。

義が『左翼小児病』の改作悪用をもって、革命的左翼を非難し、自らの経済主義、組合主義を隠蔽せんとしてきたこと。他方、左小生的部が『何をなすべきか』に立脚することをおろそかにし、労働運動を社帝、右翼日と見主義の制圧にゆだねてきたこと。以上をまとめて『何をなすべきか』および『左翼小児病』におけるレーニンの原則的見地を、レーニンの歴史的なたたかいのなかで鮮明とし、それぞれの見地は、レーニン主義の階級闘争指導の統合された不可分離の見地として、王者をつらぬく統合的見地を継承すべきことである。

そして、労働組合を“革命の学校”として組織し、経済闘争の戦場におけるプロレタリア大衆との結びつきを、蜂起—プロ独立の司会部たる党の細胞による、革命の伝導路として組織せねばならないことを呼びかけたのである。それらをふまえた革命的プロレタリアートの任務は、後日、労働運動基調第三章(下)

烽火

いま日本労働運動の激動が、とりわけ総評労働運動の解体として顕著な転換期をむかえている現在、今春闘下での労働運動におけるわれわれの任務をより鮮明にし、先進的プロレタリアートとの固い意志一致をかちとるために以下提起したい。

働幹部にとつても、『物とり闘争としての春闘の四年連続敗北』をつうじて「もはや労働組合の存在そのもの（およびその転換）が問われている」（全セン同盟副会長）や賃上げ自肅論、および全電通「春闘見直し論」に典型的な切迫感をもつて、日本経済の危機、國家

七九春闌をめぐる

労働運動の現状

七年三月の石油危機を歴史的起点とした世界資本主義の危機は、七九年にいたり、よりいつそう破局的危機の様相を深めているが、日本帝の危機、その支配の危機もまた深化している。

・社帝による強盗的抗争をはらんだ世界支配体制再編のなかでの日帝の危機として、根底的なものである。ここにおいて、日帝ブルジョアジーは今までどおりのやり方ではプロレタリア人民を支配できなくなつており、帝国主義間強盗的抗争をきりぬけられなくなつてゐるのである。そして、その突破をアジャードの侵略反革命戦争とファシズムの組織化をもつてなさんとし、そのための支配の強化として中間連合政府攻撃、そのもとでの労働運動の産業報国会化攻撃をかけてきているのである。ブルジョアジーの暴力装置の強化と前面化を柱にしての、侵略反革命へむけた国軍総動員の攻撃が強化されている。

この攻撃に規定されて階級闘争の転換が始まられている。すなわち、ブルジョアジーの攻撃にたいし、プロレタリア人民のたたかいも、根本的には、日帝ブルジョアジーとその支配の危機を回避せんとして中間連合政府攻撃に屈服するのか、それとも、この危機を革命的危機に転化せんとして蜂起——プロ独の士道を歩むのか、という権力問題に規定された転換をせまられてゐるのである。このことは、自然成長的なたたかいは、たとえば三里塚闘争にしめされるように、その最高段階に達したとしても、それ自身の壁にぶつかり、如何問題をめぐる階級闘争の根本的転換へと結ぶことによってはじめて、勝利的前途をかちとれる局面をむかえていることを明確にしている。

うにあらわれているのだろうか。

ブルジョアジーの側からは、すでに七六年財界代表による「日本はこれから危機を迎える」が、「警察・官僚組織の強化と安定した労使関係の確立により、危機はのりこえらる」との、日帝の破局的危機をまことにして、より強固、緊密な労資関係の再編をもつて危機突破宣言がなされている。いま、ブルジョアジーのよき労働手代である労働貴族——

处分が指名解雇攻撃としてかけられている。

つ闘争を展開している南大阪では、田中機械をはじめ、企業の倒産、破産攻撃として、企業の消滅をもって労組の消滅をはからんとする、さしまじいまでの組合肆本攻撃がひき

しをねらった倒産攻撃をめぐる長期労働争議
また、沖縄における反基地・反自衛隊・反C
TSのたたかいへの労働者の決起など、戦闘
的労働者のたたかいは、資本、労働貴族たち
との真っこうからの対決、闘争として形成さ
れている。

とファシズムの道である。先進的プロレタリアアートはこの一時代を彼らとの死闘としてたたかいぬき、「民主連合政府—革新統一戦線」が中間連合政府の幻惑の別名であることを見暴露し、労働運動の内部から彼らをたたきださねばならない。

解雇、入職抑制、残業規制から、パート臨時工、一時帰休、希望退職、指名解雇にいたるまで内容も多様化し、大規模化しております。活動化処分および労働者の経営参加へのとりこみへとおよぶであります。その他、協約のなしくずし空洞化や婦人の生休廃止などの内容の労基法改悪のもくろみ等々、日帝ブルジョアジーの侵略反革命戦争とファシズムの動員へむけた、新たな労資関係再編攻撃は枚挙にとまないものである。そしてその攻撃の中心の一つは、明確に総評労働運動の実質的内実たる公労協労働運動の解体に定められてゐるのである。日経連が、七七春闘総括の一つを「民間企業労資の自己責任主義にもとづく自らの解決と対称的に、公企体はあいかわらず

それは、中間連合政府にとりこまれる総合主義的政治と分岐した革命的政治スローガンとして、われわれによつて明らかにされ、上記のたたかいのなかに組織されねばならないのである。

産業報国会化攻撃

直接弾圧とその意をうけたJC・同盟による労働戦線統一の動きとして、官公労解体が進む。行せんとしていることをしめしている。すなはち、総評批判勢力の民間単産結集をもつて実現せんとしている同盟・JC主導の労戦統一は、すでに、政策推進労組会議および賃闘闘対策民間労組会議という実体をもつて準備されており、「国際自由労連加盟、官公労スト違法、政治スト禁止、労組の経営参加」などをメルクマールとして、「企業の危機、国家の危機」を労資一体となつて切りぬけようとするものである。総評においては、民間大手の二大支柱たる鉄鋼労連、合化労連がすでにその推進派であるし、残る総評の実体ともいえる官公労にあっても、全電通を旗頭にすでに分解が開始されている。

だが、これら労働貴族たちのブルジョアジーの労働手代たる本性をむき出しにした労働運動の再編策動にたいして、労働者大衆の反発、反抗が広範に銳くまきおこっている。そして、そのたたかいは「高度経済成長」下におけるそれと異なり、資本との非和解性をもつての労働貴族たちとの対決として存在している。これもまた、現下の労働運動の特徴の一つである。

時利 有事立法反文の闘争が、結論として、はひさびさに昂揚したことにして、される大衆的憤激の気運、動労本部に対決しての動労主葉の労働者の三里塚闘争との連帶のたたかいで、の堅持、昨年末から年始にかけての全過の反マル生闘争の一大爆発、沖電機はじめ全国いたるところでかけられているレッドページ攻撃の性格をもつた指名解雇にたいする不屈妥協のたたかい、南大阪などにおける組合つぶ

句をもつて労働者人民をあざむく手口をもつて彼らは、七九春闘においても「大独占は減収増益であり、分けるべきペイは大きくなつたのでたたかえどとれる」として経済闘争の「大義」なるものをのべ、プロレタリアートを排外主義、民族主義の沼地へ引きずりこんでいる。そして他方、「経済危機の根源にメスをいれ、国民本位の経済政策、日本経済の再建の道を歩むことこそ七九春闘の意義」とし、労働者人民を現下の「資本とその国家の危機」の救済へと引きこまんとしている。労働者階級の決起を彼らの悪名高い「日本経済の提言」の実現のもとに封殺し、しかも今春統一地方選挙にむけて「自治体による地域経済の繁栄」のモデルをつくりあげ、ブルジョアジーと結合してより巧みに資本主義の危機を救済せんとするにまでいたつている。

だがこの過程はいうまでもなく革命的プロレタリアートの絞殺ぬきには成立しない。そしてまたこの行きつくさきは侵略反革命戦争

産業報国会化攻撃

上述のように先進的プロレタリアートが広範に登場する時代は、同時にその領導方向をめぐる社会帝国主義者との死闘の時代にはかならない。このようなかで名実ともに社会帝国主義党としての完成をとげた日本共産党は、労働運動の戦場においても帝国主義にたいする労働者人民の憤激を帝国主義者に売りわたす中間連合政府攻撃の意識的先導者としてたちあらわれている。

マルクス主義を歪曲し、マルクスの片言双

ここにおいていつさいが総路線に裏うちされた党建設として結実されねばならず、われわれはこんにちからのソビエトー赤軍の建設にむけた革命の司令部建設と武装せる革命の伝導路の建設を大胆に宣伝し持ちこみ、教育していくかねばならない。

さて前章で明らかにしたように、労働者階級の日帝とその労働手代にたいする反撃の火の手があがっている。それは民間大手基幹産業部門における同盟・JC支配の経済的基礎の動搖と解雇反対闘争の噴出、少数民族第一組合のたたかいの前進であり、民間中小未組織労働者における労働争議の増加、自主管理・自主生産体制の確立とそれにたいする民事執行法との闘争であり、総評の最後の拠点・労協にたいする敵の分断解体攻撃とそれへの反撃として噴出している。そしてわれわれが注目すべきはさまざまな角度からであれ、これららの運動が自然成長的な横断的結合への道をたどっていることである。すなわち日本資

の対峙戦であり、われわれは中小未組織労働者の争議をはじめとする労働戦線の右傾化に抗してたたかう部分との結合と共闘を意識的に追及し、産業報国会化とたたかいぬく陣地を大衆的に準備していかねばならない。

第三に、先進的プロレタリアートは必ずみずからの前衛党を建設するたたかいを引きうけねばならない。われわれが昨年来、指摘してきた『労働運動の社帝の制圧と、他方における諸階級層人民の闘争の政府打倒を掲げた攻政府闘争への自然成長的途着』という階級闘争の局面は、現在激しい党派闘争と権力の攻撃との攻防のなかにあり、政府権力問題をめぐる闘争の性格を明らかにしてきている。

(9) 1979年3月25日

火 烽

本主義とその国家の危機のなかで、部分的な国家権力との対決をはらみつつ全国的な運動を展望しているのである。このことの根拠はあえて言及するまでもないであろう。日本資本主義の危機は資本の人狼性むきだしに失業、労働苦、生活苦を強制しもはや耐えがたいものにし、またその支配の危機は昨秋有事立法を焦点に大きな階級的運動をまきおこした事実をとつてみても明らかである。しかし同時にわれわれはかかる経済闘争および組合主義的政治闘争の自然成長性に拝跪することは、敗北の道であることを主張しないわけにはいかない。革命的プロレタリアートは不斷に帝国主義・社会帝国主義、右翼日和見主義との政治的分岐を鮮明にし、全面的な政治暴露をもって革命的政治闘争との結合をかちとつていかねばならない。

戦前の労働者階級の敗北は、明らかにこのことにたいし警鐘を轟打しているものといわねばならない。「産業報国会」運動は一九三八年国民総動員令によつて開始されたのであるが、それは一つの決着であり、それにさきだつ約十数年間の階級闘争は、これにむけた労働者内部での排外主義をめぐる、革命と反革命への激しい分裂と党派闘争として存在したものである。世界恐慌の波及は一挙に階級矛盾を激成させ、一九三〇年には労組への組織率、争議件数も戦前のピークをしめした。一九三一年「満州事変」はこの過渡期を決着づけた。すなわち共産党はすでに権力により壊滅状況に追いつまれており、労働者内部における排外主義の組織化と、右翼社会民主主義者の社会排外主義としての育成が完成し、かかるなかで不況の波をもろにかぶった労働者人民の生活苦は、一挙に「満州事変」へと組織化されてしまったのである。これは社会民衆党など右翼社民の「健全なる労働組合主義」「三反主義（反共、反ファシズム、反サンジカリズム）」という主張が、「満州事変」を契機に「日本国民大衆の生存権を確保せよ！」へと転化した過程に照応するものである。

すなわちこれへの正しい回答は経済闘争の徹底化でもなければ、また反政府闘争のための労働戦線の統一と、人民戦線の結成でもなかつたのである。われわれは、資本とその國家の危機の時代における、徹底したプロレタリア国際主義による労働者人民の組織化、そして社会帝国主義・右翼日和見主義とみずからを峻別した革命党の建設と内戦の準備を、総括し教訓しなければならないのである。

そしてこのことの教訓化はわれわれに、帝・社帝の中間連合政府攻撃の一時代の闘争の性格を示唆している。すでに昨年末を頂点とする、全通反マル生闘争の高揚と攻防は、今後の労働運動をめぐる攻防の萌芽を端緒的にあらわしている。それは第一に、各支部で特徴的におこつた局管理者をまきこんだ二組による一組へのゲバルトと、職場からのたたき

だし、レッドページ攻撃であり、第二に郵便遅延のキャンペーンをぶちあげ、町内会を配達に組織するなどの戦闘的労働者にたいする地域治安管理体制の強化であり、第三に右翼学生による反ストライキ防衛隊の組織化であり、第四に最近の中国・ベトナム対立をも逆手にとつたイデオロギー攻撃をかけてきていることである。

さて、これらにうちかつ準備ぬきに労働運動の前進はありえない。そしてまた、これは客観的にも主体的にも、その根拠を失つてきたところの「総評労働運動」を防衛することでは、全然突破できない問題である。

したがつて現在の労働戦線の右翼的再編と、資本・権力の攻撃とたたかい、その運動の横断的結合を展望するすべての労働者は、同時に、「総評運動の左翼的補完」「日本型労働組合主義の特殊な戦闘力の回復、労働組合の

戦闘性の回復」を自己目的化する部分と、みずからを峻別しなければならない。ある者は民同自身のなげすてた「組合綱領草案」を、階級の支配へのたたかいを、職場・生産点のみにきりちぢめるなどの手口をとつてたちあらわれている。それは、労働者階級を武装蜂起→プロ独の司令部へと、武装せる革命の伝導路へと革命の準備をすすめるのではなく、新しい型の解党主義をのびこませたり、サンジカリズムへの武装解除をのびこませる役割をはたす左翼組合主義者にはならない。

そしてまた先進的プロレタリアートがきりひらいてきた、社帝との政治的分岐を不斷に後退させ、社帝への補完物へ転落していかざるをえないのだ。この道は明らかに帝・社帝の産業報国会化攻撃への敗北の道である。

右翼日和見主義

急進民主主義批判

右翼日和見主義の頭目第四インターは、かかる労働運動の活性化の開始にたいし、自己の「指導」を「帝国主義の危機の時代は社会主義の時代」と空文句的に叫び、ソ連社会帝国主義を公然と輸入して対置し、それを次のような「意識性を付与する」ことによって実現せんとしている。

いわく「個別の自主管理のたたかいを労働者自治と自己権力へ」「自己を情勢を左へやる主体として位置づけ強化せよ／首切り・合理化とたたかう全国戦線を建設せよ！」

これがすべてである。第一に、日帝の侵略反革命戦争→ファシズム準備との正面対決をせいぜい資本と社帝による組合民主主義の侵害という土俵でお茶をにごしており、社帝と

罪しているのである。

第二に、したがつて組合運動のレベルにまで徹底した社帝一日共にたいする戦術的反対派の役割に、みずから的位置を確定しているのである。

第三に、彼らは組合レベルの「全国戦線」をもつてゼネスト革命派よろしく「革命の統一戦線」として位置づけているのである。

第四に、したがつて労働者の自主管理を権力奪取とプロ独にむけていかに武装させていくのかなど眼中になく、「危機の時代には自らにあつては、「党建設」も「情勢の予見と政治力学の解決」をその内容とするのである。かかる全実践は、まちがいなく、労働者階級の決起を社帝に融合させ、そのことをつうじて労働者階級を武装解除させるものである。

さて、主観的には、これとたたかわんとする中核派は、「日帝と資本の攻勢の絶望的実態と対決し、革命の思想を対置せよ！」「社共・民同・カクマルの腐敗と混迷のりこえ、革命派の大膽な産別的前進を！」を呼号している。

われわれは、彼らにあつて第一に、いかに「革命の思想」のオブラーで包んでいるとはいえ、基本的に戦闘的労働運動の防衛の枠から問題をたて、これら社共・右翼日和見主義を「無力化」「反動的制動」として批判する点を指摘しないわけにはいかない。ここから問題をたて、これら社共・右翼日和見主義と対決し、革命の思想を対置せよ！」「社共・民同・カクマルの腐敗と混迷のりこえ、革命派の大膽な産別的前進を！」を呼号している。

われわれは、彼らにあつて第一に、いかに「革命の思想」のオブラーで包んでいるとはいえ、基本的に戦闘的労働運動の防衛の枠から問題をたて、これら社共・右翼日和見主義を「無力化」「反動的制動」として批判する点を指摘しないわけにはいかない。ここから問題をたて、これら社共・右翼日和見主義と対決し、革命の思想を対置せよ！」「社共・民同・カクマルの腐敗と混迷のりこえ、革命派の大膽な産別的前進を！」を呼号している。

われわれは、彼らにあつて第一に、いかに「革命の思想」のオブラーで包んでいるとはいえ、基本的に戦闘的労働運動の防衛の枠から問題をたて、これら社共・右翼日和見主義を「無力化」「反動的制動」として批判する点を指摘しないわけにはいかない。ここから問題をたて、これら社共・右翼日和見主義と対決し、革命の思想を対置せよ！」「社共・民同・カクマルの腐敗と混迷のりこえ、革命派の大膽な産別的前進を！」を呼号している。

すべてのたたかう労働者諸君！今春闘におけるわれわれの三つの任務を再確認し、資本とその支配の危機を革命的危機に転化すべく全力をつくそう。開始された、そしてふたたび元にもどることのない日本階級闘争の構造的転換を、蜂起→プロ独にむけた革命の準備戦としてたたかいぬけ。労働者階級人民の政治的前衛としてのたたかいを一瞬たりとも見失うことなく領導せよ！